

手足口病・ヘルパンギーナに気を付けて！



夏季に流行しやすい手足口病とヘルパンギーナ。
感染者数が増加しています。予防しましょう！

手足口病

- 特徴：
 - ・ 5歳以下の乳幼児が多く発症。
 - ・ 38℃以下の発熱がほとんど。
 - ・ 感染してから3～5日後に、口の中や手足に水疱性の発疹がでる。
 - ・ 症状が治まった後も、ウイルスが便の中にでる（約2～4週間）。

ヘルパンギーナ

- 特徴：
 - ・ 5歳以下の乳幼児が多く発症。
 - ・ 38～40℃の発熱
 - ・ 感染してから2～4日後に、突然の高熱、のどの痛み、口の中に水疱や発赤がでる。
 - ・ 症状が治まった後も、ウイルスが便の中にでる（約2～4週間）。

どのようにうつるの？

- 〔飛沫感染〕 患者さんの咳・くしゃみに含まれるウイルスを吸い込むことで感染。
- 〔接触感染〕 ウイルスが付いた手で口や鼻などの粘膜に触れることで感染。

対応は？

- ・ 食事前や排泄後、おむつ交換の後など、石けんと流水による十分な手洗いをこまめに行いましょう。
- ・ タオルの共用を避けましょう。
- ・ 乳幼児がよく触れる場所やおもちゃなどは消毒をこまめに行いましょう。
- ・ 熱中症に注意しながら、咳エチケットを心がけましょう。
- ・ 気になる症状があれば速やかに医療機関を受診しましょう。

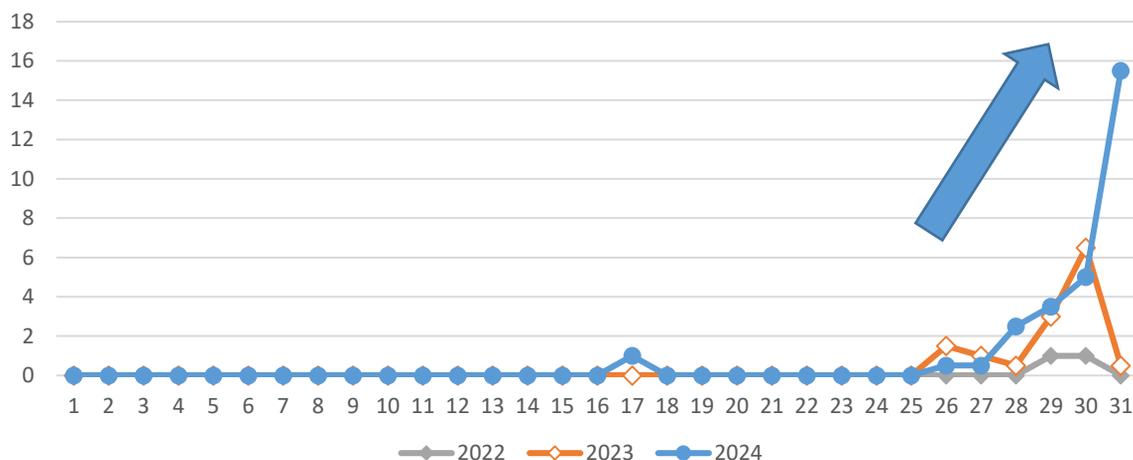


てをあらおう

手足口病・ヘルパンギーナの気仙沼管内流行状況

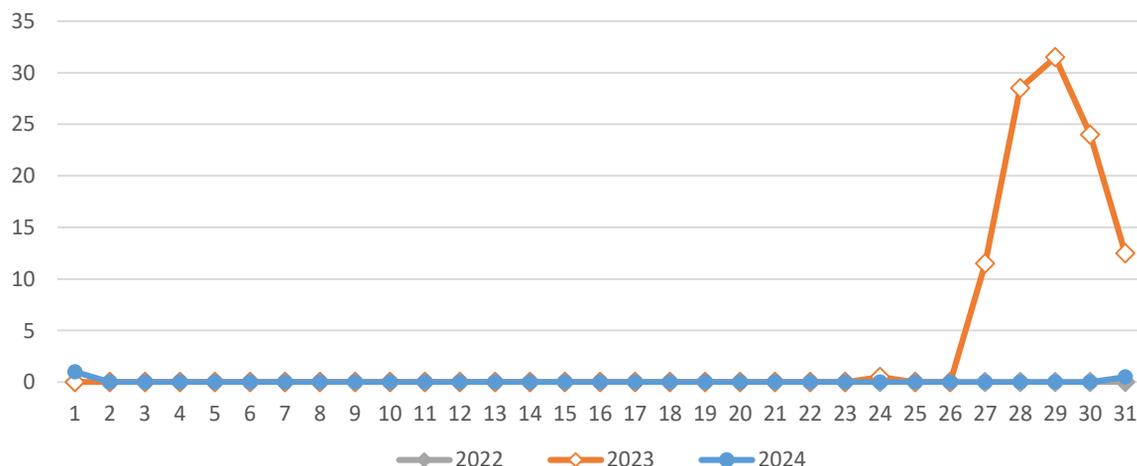
(小児科定点)

手足口病



・今年度は第28週（7月中旬）から増加し、第31週（8月中旬）には定点医療機関あたり15.5人と、昨年度の同じ週の約15倍になっています。

ヘルパンギーナ



・今年度は現在のところ大きな増加はみられませんが、昨年度は7月上旬から流行がみられたので、今後も注意が必要です。